

学校概要

1 学校名 豊橋市立杉山小学校

【校章】

2 所在地等

〒441-3302 豊橋市杉山町字御園9番地4

Tel: (0532) 23-0069 Fax: (0532) 44-2064

HP: <http://www.sugiyama-e.toyohashi.ed.jp/>

E-mail: sugiyama-e@toyohashi.ed.jp

【交通案内】豊橋鉄道渥美線 杉山駅下車 徒歩 10分



3 学校規模

学級数 : 通常学級 15 特別支援学級 2

教職員数 : 校長1 教頭1 教諭 19 養護教諭I 非常勤講師 5

事務職員1 業務士(用務)1 業務士(給食)2 合計31

児童数 : 男子241名 女子216名 合計457名

4 本校の教育

(1) 校区の歴史

杉山校区は、豊橋市の南西部に位置し、田原市に隣接している農業の盛んな地域である。古くは杉山村として愛知県渥美郡だったが、1955年に分割され、豊橋市と田原町に編入された。緑も豊かで自然環境に恵まれ、汐川干潟という本州一広い干潟もある。学校は140年近い伝統がある。以前は単学級の小規模校であったが、振興住宅地のいずみが丘地区の宅地造成により、過去12年間に児童数が増え、昨年度18学級数のピークを迎えた。今後は、若干減少に転じて落ち着く見込みである。

(2) 本校の教育目標

「至誠一貫」

- ・自分にとってちょっと難しい目標を一つ決めて達成していくことが、大きな夢の実現につながる。

(3) めざす子ども像

- ・ともに考える子
- ・すすんで行動する子
- ・笑顔あふれる子

(4) 経営方針

「真心をもって何事にも立ち向かう」

○学校・学年全体の活動で、学級の活動で、授業で「杉山っ子」を鍛えるための活力ある教育活

動を創造する。 学力、体力、豊かな心

・何事にもねばり強く挑戦する心と相手を思いやる優しさを教育活動全般の中で育成する。

○子ども・保護者・地域から信頼される魅力ある教職員、学校をめざす。

学校評価、温かい人間関係、研鑽、開かれた学校

・評価を学校の改善、教師の意識改革に生かす。

・授業力・指導力向上のための自己研鑽、相互研鑽を積み重ねる。

・家庭、地域との連携を重視するとともに、安全・安心な開かれた学校づくりをすすめる。

○夢を語れる子

学校行事、生活、健康

・子どもの伸びようとする芽を敏感にとらえ、子どものきらりと輝くよさを引き出す。

(5) 本年度の重点努力目標

① 学習

・基礎学力（読み・書き・計算）を育成する。

・環境を意識し問題解決に向け実践する力を育成する。

・ねばり強く学年の学習基盤をきちんと身につけ、確かな学力をつける。

・体験や見学活動を取り入れ、地域の人的、自然、文化的教育力を積極的に活用する。

・学ぶ意欲（わかった、できた、もっとやりたい）をわきたたせる工夫をする。

・器械運動、水泳、マラソン、縄跳び等、目標を設定してねばり強く継続して鍛える。

② 特活

・縦割り班活動をとおして、ねばり強く挑戦する心と相手を思いやる優しさを育む。

・楽しく魅力ある行事、価値のある行事、子どもが主役となる行事を計画的に実施する。

・子どもの言動を認め、励まし、ほめる場面を意識して設ける。

③ 生活

・あいさつはどこでもだれにでも笑顔で、返事は大きな声でできるように、継続的に指導する。

・集団生活での約束やきまりを守る、自分の役割と責任を果たすように、全校体制で取り組む。

・健康な生活習慣が身につくように、生活チェック習慣を定期的に行う。

・交通事故、けが、不審者などの潜在的危険から自ら回避し、自分の命は自分で守るように指導する。

④ 開かれた学校

・子どもも、保護者も、地域の方も気軽に話や相談ができるよう、さらに明るい雰囲気づくり温かい人間関係づくりに努める。

・情報を発信し、共有化に努める。(学校新聞、学年・学級通信、メール配信等)

・保護者や児童からアンケートをとり改善に生かすようにする。(学校評価)

「ふるさと杉山」が大好きな子をめざして

～環境への意識を高め、地域の「もの・ひと・こと」にかかわる活動を通して～

1 Description of the project (プロジェクトの概説)

子どもたちには、明るい未来をよりよく生きてほしい。しかし、温暖化の影響で異常気象が起こるなど世界各地で様々な問題が起こっており、明るい未来があやぶまれる問題が数多く報告されている。持続可能な社会の実現を目指し、これらの問題を自らの問題として捉えることができるような担い手に育てたいと考える。

本校では、環境教育を各教科で扱ったり、資源回収や校区散策の行事、委員会等で行ったりしてきたが、22年度からは「環境への意識を高め、地域への思いを深める子どもの育成」というテーマで、隣接している小中学校と連携し、環境教育に取り組んでいる。各教科・領域等を環境という視点でカリキュラム化した「小中一貫環境カリキュラム」を基に、生活科や総合的な学習の時間に、地域の「もの・ひと・こと」とかかわりながら地域のよさを実感し、地域にかかわっていく活動を実践する。そうした活動を継続することで、自分たちの住んでいる地域のよさに気づき、将来にわたって自分の住んでいる地域に愛着をもち、地域のために役立ちたいと考える児童生徒の育成を図っていきたい。

2 Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、環境への意識を高め、地域の「もの・ひと・こと」にかかわる活動を通して、子どもたちの身近な地域が好きになり、地域とかかわることができるのではないかと。また、そうした活動を通して将来の持続可能な社会づくりの担い手を育むことができる(ESD)と考えている。

そのために、学習段階で育んでいく姿と身につける力の目標を以下のように掲げている。

(1) 低学年 (地域のよさを理解していく時期)

- ・環境に対する豊かな感性を育む
「感性豊かに受けとめる力」を身につける

(2) 中・高学年 (よりよい地域となるように、できることを考え自分たちで取り組んでいく時期)

- ・環境に対する見方や考え方を育む
「思いを表現していく力」を身につける (中学年)
「協力して解決していく力」を身につける (高学年)

3 Execution(プロジェクトの実施)

プロジェクトは、「小中一貫環境カリキュラム」を基に、各教科・領域で4つの能力(※主体性・協調性・論理性・創造性)の育成を図りながら、生活科や総合的な学習の時間を中心に行っている。ここでは、生活科・総合的な学習の時間の各学年の中心的な活動を紹介する。

(1)活動を進めるためのESDカレンダー

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	<ul style="list-style-type: none"> ●ぐんぐんのびろ ・アサガオを育てよう ・チューリップの球根をうえよう ●みどりたんけんたい ・はるとなかよし ・あきとなかよし ・きたかぜとともだち 											
2年生	<ul style="list-style-type: none"> ●レッツゴー！まちたんけん ・春のまちに出かけよう ・しおかわひがたに行ってみよう ・秋や冬のひがたにも行ってみよう ●ぐんぐんのびろ ・夏のやさいを育てよう ・冬のやさいを育てよう 											
3年生	<ul style="list-style-type: none"> ●大地のめぐみに感謝して ・野菜のひみつをさがれ ・大きく育て ・みんなで収穫だ 											
4年生	<ul style="list-style-type: none"> ●杉山エコプロジェクト～エコについて考えよう～ ・わたしたちの町は今 環境問題について考えよう ・エコライフにチャレンジしよう ・わたしたちのエコ活動を広めよう 											
5年生	<ul style="list-style-type: none"> ●米作りに挑戦しよう ・米について調べよう ・田んぼで体験！ ・収穫の喜びを味わおう ・バケツ稲で自分だけの米を作ろう 											
6年生	<ul style="list-style-type: none"> ●発見！ぼくらのふるさと杉山 ・杉山新百景をさがそう ・ふるさと杉山を守ろう ・地域に向けて発信しよう 											

※4つの能力

主体性・・・問題解決に向けてすすんではたらきかけることができる。

協調性・・・友だちとすすんできかわり、相手の考えを理解・尊重できる。

論理性・・・情報を正確にとらえ、根拠をもとに考えることができる。

創造性・・・美的なものを感じとり、表現することができる。

(2)環境に対する豊かな感性を育む活動（低学年）

地域のよさを理解していく時期ととらえ、探検活動や体験活動を通して、地域の「もの・ひと・こと」とふれあい、校区のよさを体感する。

2年生では、校区の方から「杉山のすごいところ」についてお話を聞いた後、子どもたちが校区探検を行う。そして、一人一人が見つけたよさを、の授業で「杉山のたからもの」として発表会を行っている。



【2年：ばら園の見学】

(3)環境に対する見方や考え方を身につける活動（中・高学年）

よりよい地域となるように、できることを考え、自分たちで

取り組んでいく時期ととらえる。4年生では校区のよさや家庭や学校でできるエコ活動等思いを新聞にまとめ、保護者に伝える活動に取り組ん



【6年：汐川干潟の清掃】



【4年：エコ新聞】

でいる。6年生では地域でさかんな農業や校区の自然・文化・歴史的な資産について調べ干潟の清掃や外来種の駆除について協力して解決する取り組みを行っている。

(4)行事や委員会活動の取り組み

①杉山グリーンウォーク

- ・親子で校区を散策し、

②緑化運動

- ・地域保全隊の方と協力しながら、花いっぱい運動を行っている。

③節水運動

- ・児童会の運営員が中心となって、全校児童に節水を呼びかけている。

④リサイクル運動

- ・児童会のボランティア委員が中心となって、空き缶のリサイクルやエコキャップの活用を行っている。

⑤環境サミット、3校合同530運動

- ・環境教育連携校3校で夏休みにそれぞれの実践について話し合う「環境サミット」や校区のゴミ拾いを行う「530運動」を行っている。

4 Type of materials to be used (使用する教材)

デジタルカメラ、パソコン、プリンター、肥料、長靴、農機具、バケツ、B紙
画用紙、軍手、ごみ袋

5 Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students comprehension and attitudes? (プロ ジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

■授業での評価

- ・子どもたちは、授業終了後に今日の授業をふりかえり、気づいたことや感想をまとめる。教師はこの記述から子どもの取り組み方や育ちをみとる。

■教育活動の評価

- ・委員会や行事では、活動カードや豆記者（日記）などの記述や活動の様子から評価し、子どもの取り組み方や育ちをみとる。

On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

21 / 4 / 2014

Date (日付)

Principal' s name (校長名 (※直筆))

Position, (役職)

Institution' s name (学校名)